

バス駐車場及びバス停留所に係る課題等 (大手バス事業者 2 社への聞き取り結果)

1 バス駐車場について

(1) 課題

- ア 鎌倉、箱根湯本などの人気観光地で新たに駐車場を確保することは相当困難。(A 社)
- イ 横浜駅西口の天理ビルの乗降場は使い勝手が悪い。(B 社)
- ウ 箱根湯本駅の駐車場は使い勝手が悪く、駐車どころか乗降すら難しい。(B 社)
- エ 鎌倉観光会館の駐車場が使えなくなり、とても不便。(B 社)

(2) 課題への対応案

ア オペレーション

新設・拡張するより既存の駐車場をいかに運用するかが重要であり、イメージとしては、一定のエリアで駐車場を一元管理し、予約受付や駐車場の現場管理などの体制を整備。(A 社)

【他自治体の事例】

(7) 東京都台東区 (参考資料①)

観光バス予約システム (導入：平成 29 年 2 月 1 日)

駐車場 3 か所、乗車場 2 か所 事前支払制

(4) 京都市 (参考資料②)

京都駅八条口貸切バス乗降場の事前申込制

乗車 1 台につき 20 分間、平成 29 年 7 月 1 日以降は有料予定

イ 宿泊施設駐車場の有効活用

日中の宿泊施設の駐車場を活用できれば、観光バスの乗降・駐車ができ、宿泊施設の収入にもつながる。(A 社、B 社)

ウ 駐車場リストの公表

駐車場リストや混雑状況、観光バスの入れない地域 (進入すると U ターンできない) 等を情報として公開することは有意義。(A 社、B 社)

料金、予約の可否情報があると良い。また、主要な駅での乗降の可否情報もあると良い。(B 社)

エ グループ内での協力

鎌倉エリアではグループ会社の敷地を大型バス駐車場として活用している。（Ｂ社）

(3) その他

ア 全国の様々な規模・形態のバス事業者（インバウンド業者を含む）への周知や事業者間の協調が課題。（Ａ社）

イ 住民等の支障になると SNS 等の発信による企業イメージの低下を懸念。（Ｂ社）

ウ 適切な運行管理のため、運転士が休憩できる駐車場があると良い。（Ａ社）

2 バス停留所について

(1) バス停留所の屋根の設置について

上屋を設置可能な停留所にはほぼ設置しているが、道路の狭い場所では設置できず、また、既存のものが法令に不適合で、除却すると新しく設置できない場合がある。

なお、椅子は壊れやすいので管理面に課題もある。（Ａ社）

(2) バス停留所の多言語化について

ア 観光客からは降車した停留所付近での観光インフォメーションの要望がある。（Ａ社）

イ 停留所の多言語化は課題であるが、限られたスペースの中で、高齢者等の要配慮者に対する案内表示を優先する必要があるため、多言語表示は優先度が低くなる。（Ａ社）

ウ QRコードやアプリの活用を考えられるが、歩きスマホによる事故発生を防止したい交通事業者としては難しい立場。（Ａ社）

(3) その他

ア バス車内でのアナウンスの多言語化は、停留所間が短い場合、放送が終了するまでに次の停留所に到着してしまうという課題がある。（Ａ社）

イ 事業者によって、乗降口が前乗り・後乗りと異なったり、料金の支払方も先払い・後払いと異なったりしており、その周知も課題。（Ａ社）